

小学生と

公立小学校全寮化

から広がる脱炭素



国公立小学校の全寮化で小学生の生活が変化する。

低炭素に適した「単位」と全寮制での国営化で生じる「生育・学住分離」でカーボンニュートラルな社会が広がっていく。

いま、脱炭素のきっかけは沢山あったので。

Z - type ZEH? 技術で解決できる時代は終わろうとしています。 >>>



E - type 縁? 一緒に居ることが必ずいいとは限りません。 >>>



N - type 日本? 高齢になっても車は手放せません。 >>>



R - type 料理? 好き嫌いが多すぎて個別につくっています。 >>>



Y - type 予想外? いえ創造していく未来です。 >>>



O - type 王道? 小学校の国公立以外の選択肢はありません。 >>>



全寮制国立小学校とは? 教えます。

運営	私立小学校	“新”国立小学校	国公立小学校
シェア	0.9%	99.1%	99.1%
学費	約167万	約40万	約35万
教育	充実	充実な義務の範囲	義務の範囲

“新”全寮制国立小学校制度

義務教育9年（小学校6年、中学校3年）の内、国立の小学校に限り、その児童は、6年間寄宿舎からの通学で学習を行う。
1学年から4学年の児童は寄宿舎からの通学、5学年と6学年の児童は小学校区に含まれる住宅に下宿して、さらに小学校へ登校する。

学級編制

1学級20人(低炭素化に適した小学校単位)を基本に児童が編制される。
小学校1校は、20人学級4クラス(80人/学年)、6学年を基本とし、児童数480人で全24クラス。単位による相互性でクラス替えも容易になる。

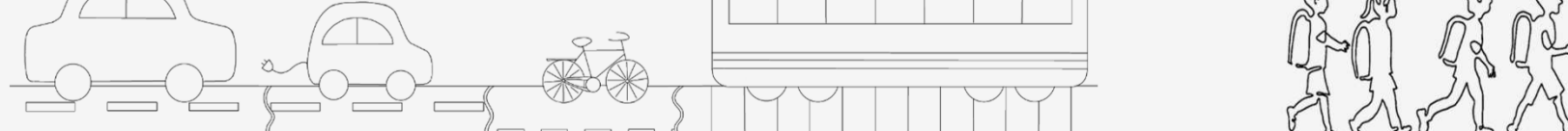


進級制度 (= 旅校制度)

児童は進級するごとに、出身地方区分以外の全6地方のどこかの小学校に転校する(以降、旅校と表記)。通常の場合、卒業までに日本のすべての地方区分での1年間の滞在を経験する。
例外で、いじめなどの原因となった児童は便宜的に旅校で対応する。

小学生の寮生活に関連した低炭素化
持続可能な経済発展

“両立で可能になるカーボンニュートラルな社会”



02

既に遠距離登校の過疎地で実施

小学校の適正配置
通学距離4km以内(おおむね1時間)

この基準を満たせない地区で実施

小学生: 通学分の自由時間増加
友達との時間増加
地域: 仕事増加、交通支援金増加

03

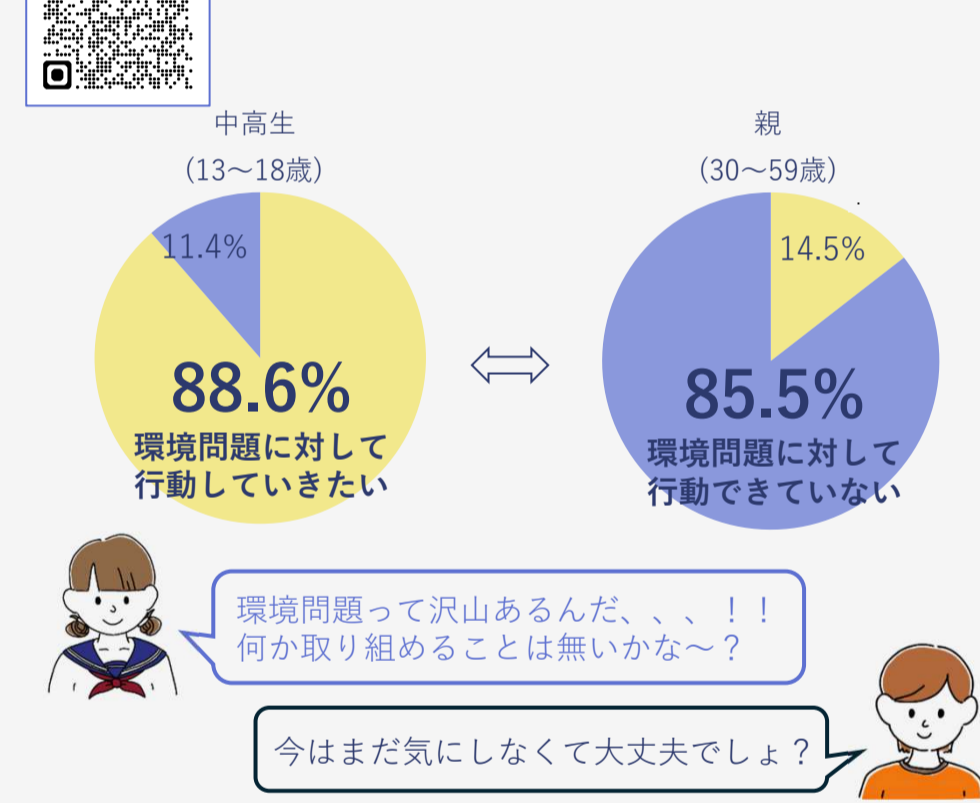
地方区分内の過疎・過密解消

04

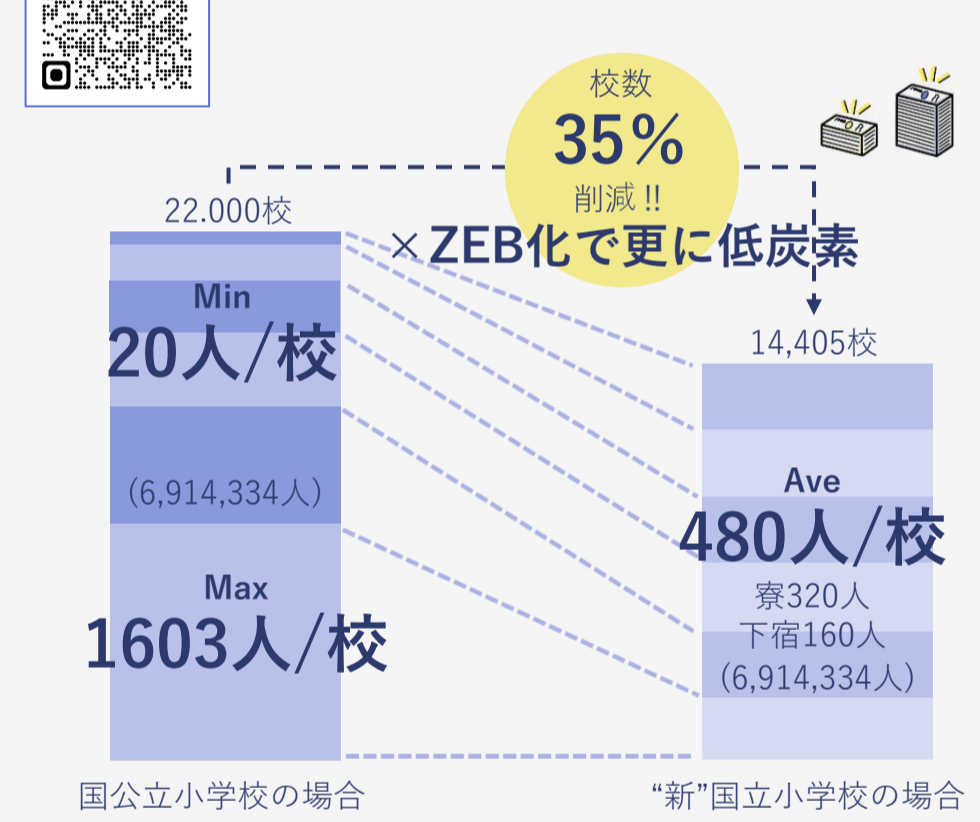
全校国営で脱炭素な社会基盤

2050年に繋がる、社会変革の例を並べてみました。

「環境問題に対する親子の意識調査」(2021年しらくま電力)



「学校施設の『ZEB』化事例」(2019年文部科学省)



「私立全寮制小学校取材記事」(2022年GOETHE)



「村上芽の「深く知るSDGs」」(2024年SDGs ACTION!)



習慣変化

親世代と子供世代の環境問題に対する考え方には反対ほどのギャップがある。生活を切り離すことで、一緒に居ると変わらない習慣の逆輸入が帰省時に起こり、低炭素行動に変化。子「今日は車なの? バスで行こう!!」

適正規模校運用 × ZEB校舎・寮

小学校統廃合で7,595校が削減されてエネルギー運用量が減る。エアコンに対する児童数、先生に対する児童数、設備充実度が均等に無駄ない。古くなった校舎群の断熱化よりも厳選した校舎をZEB化、新築する方が効率的。

「地域の子」「日本の子ども」

旅校で全国の地勢を学び、伝統に触れる。自主性・主体性が尊重される事例として、山村留学や自然体験キャンプがあるが、高い費用や親の関心によるなど、経験格差を生む。国営で機会を提供すると基礎教育が均等になる。

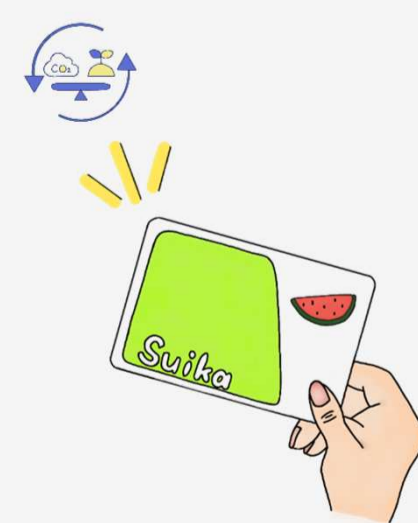
生育分離で女性進出

子育て時間で女性は働き方を制限される。両立を目指すも、日本の約18%の子育て層は理解されず支援金で批判される。生育分離は、女性の社会進出から、全要素生産性(TFP)の向上に寄与し、持続可能な経済発展を促す。



マイカー小型化

1人で外出が主になり、ファミリーカーが要らなくなる。車の小型化、EV導入のハードルが低くなり、エコな生活。



移動シェア世代

小学生の公共交通の利用率上昇により、廃止路線の減少。祖父母の通学送迎もロス。免許返納を促進。



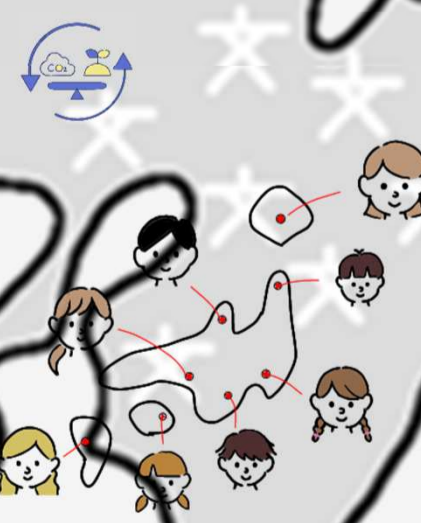
人間野生化

ZEB小学校は山・海、自然の中に新築され、運動能力向上。小学校跡地は介護施設などに転用で2次利用。



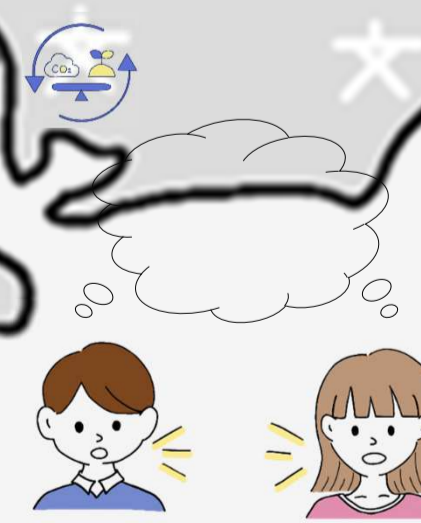
食品均等システム

給食に小学校単位が導入され、食料分配の適量化が可能。家庭での子供用料理や、食品廃棄のエネルギーが削減。



コミュ力生産

20人規模のクラス替えと旅校で、役割や友達の固定化がなくなる。全国各地に疑似兄妹が増えていく。



個性的日本人

柔軟な幼少期に沢山の人と会うことで、社会的、認知的、個性の発達。マイノリティへの理解が共有される。



ノーモア過疎地

小学校のある場所(小学校徒歩圏内)への移住がなくなり、過疎地の人口流出の阻止と、新小学校の仕事需要。



育てる関係

親ガチャ、毒親、モンスターペアレントなど、出生環境の不公平をリセット。偶に会う関係と距離が家族縁を育成。